

五感産業フォーラム

生活五感研究会

- 五感回復のライフスタイル&ビジネスを創出する -

Invitation to Creative Sensory Life Style & Business



財団法人 大阪科学技術センター

生活五感研究会

【背景と目的】

20世紀、私たち日本人は、世界にも類を見ない経済成長を成し遂げてきました。そして、超少子高齢化と成熟化・技術革新が同時進行する21世紀の現在、人間らしく生きるための創造的ライフスタイルの創出が強く求められています。近年の癒しや自然回帰、あるいは健康志向などはこのような動きの中で捉えられます。

「生活五感研究会」では、このような時代の潮流を踏まえ、人間の五感をトータルに回復し、新たな活力を生み出すための日々の生活空間の創出、新たな商品やサービス・事業についてのヒントを、多彩な分野の専門家、有識者、第一線の開発者の参加を得て、参加の皆様とともに考え、提案し、企画していくことを目的として取り組みました。



五感回復のための場と仕掛け

【基本コンセプト】

本研究会の目的である人間の「五感回復」のためには、「自然」「家族」「社会」の関係の中で、生活者がいかに五感のバランスを取り戻すかが課題になります。

「生活五感研究会」は、研究会各社の技術・アイデアを元に新しい五感環境へのアプローチを探ってゆきます。その活動の成果は、セミナー・研究報告としてまとめ、参加各社共有の知識として蓄積されます。

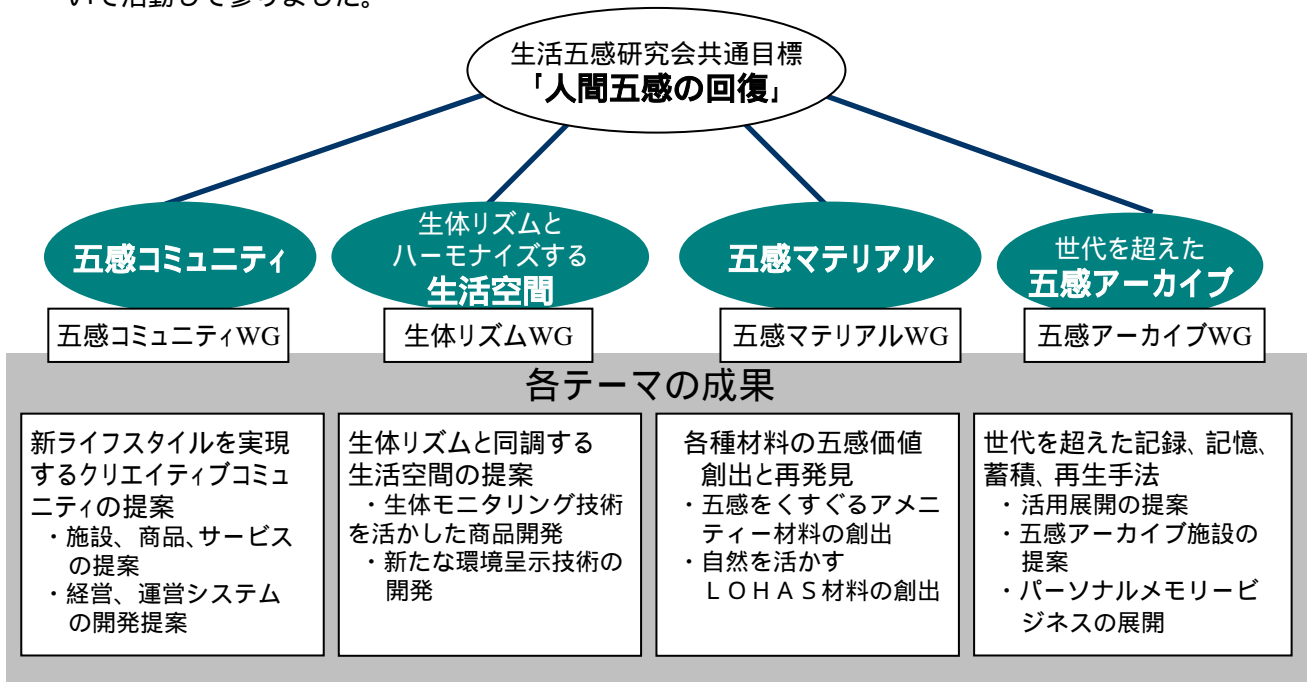
成果は“新たな五感環境技術の開発”“五感環境づくりへのシナジーデザイン”さらに、“参加企業各社の統一コンセプト商品開発”へとつながることも念頭に入れて活動を行って参りました。



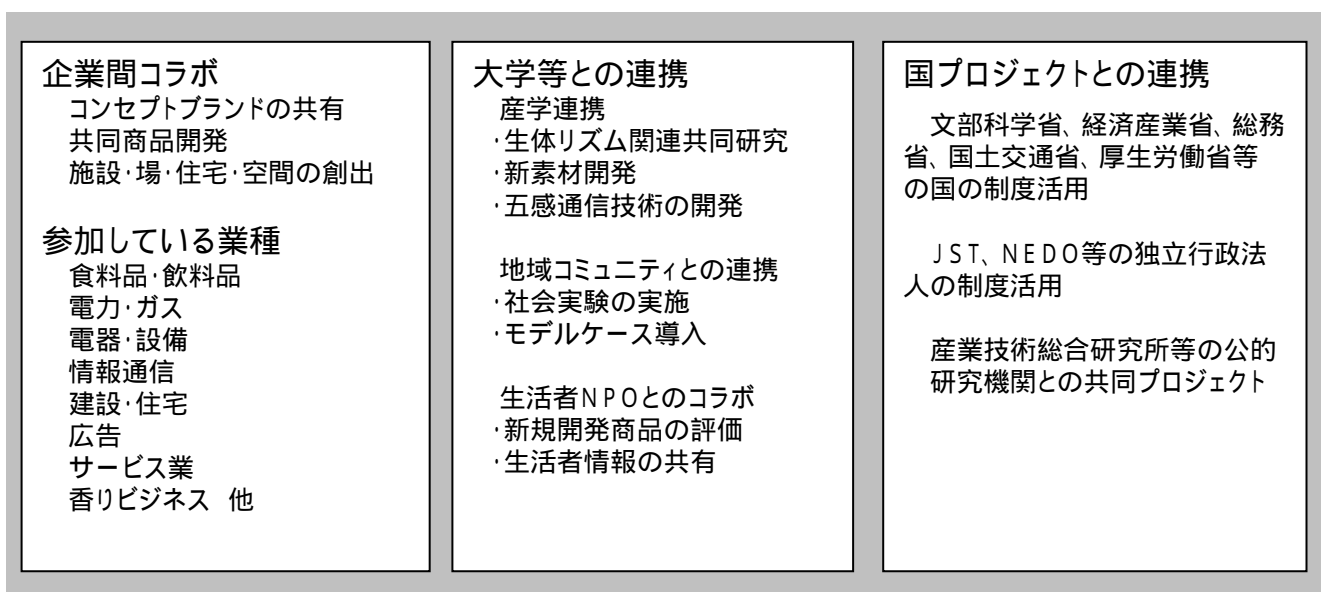
「生活五感研究会」のねらい

【主な研究テーマ】

「生活五感研究会」は、新しいライフスタイル創出のための人間五感の回復をめざして、4つの研究テーマごとにワーキンググループ（WG）を設置して具体的な検討を行い、それぞれの成果は、「生活五感研究会」全体としてまとめ、以下のような場を通じて、社会へフィードバックすることも念頭において活動して参りました。



成果の展開



五感コミュニティ

背景と目的

日本は20世紀、世界史上まれで急速な経済成長を成し遂げた。そして、21世紀の現在、成熟化、高齢化を向かえ、新しいライフスタイルの構築が大きなテーマとなっており、その中でも、人として豊かに生きるための場の創出が強く求められている。

本テーマでは、今後、マーケットの中核になるといわれるシニア世代をターゲットに、自然との融合による人間の五感を生かしたクリエイティブな場の開発に取り組み、質の高い豊かなくらしの実現を目指す。これにより、他世代をターゲットにした事業展開も可能となります。

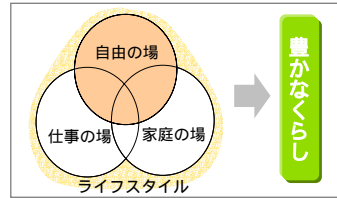
主な研究項目

新しいライフスタイルを創出する
「自由の場」とは!!

私たちが求める「自由の場」とは何か。また、その必要性を検証することで「自由の場」の本来の姿を設定する。

人として豊かに生きるためには、
生計を立てるための「仕事の場」
(子供の場合は「教育の場」)
生活を行うための「家庭の場」
人として豊かに生きるための「自由の場」

がバランスよくライフスタイルの中に組み込まれることが必要である。



自然との融合による
「自由の場」のイメージ設定

自然が持つ五感回復力を生かしながら、クリエイティブなライフスタイルを実現できる場をモデルプランとして作成する。

自然による効果

穏やかさや癒しを感じて「五感が回復する」
生命力エネルギーを感じ、刺激され、触発され、
研ぎ澄まされて「五感が動き出す」
農作物を育て「五感で味わう」



「自由の場」をベースにした
新しい商品、サービス、事業の開発

モデルプランを核として、各関連企業がコラボレーションすることにより、商品、サービス、事業の開発ベースを創出していく。

事業展開の方向性

約1,000兆円の個人金融資産を保有している
シニア世代をターゲットとした事業の立ち上げと
コミュニティ基盤の創造
国の補助事業等の導入



コーディネーター

前田 松和(鹿島建設(株) 関西支店次長 | プロジェクト推進)

アドバイザー

加藤 晃規(関西学院大学 総合政策学部 教授 | 建築類型学、都市環境デザイン学、次世代型都市論)

期待される成果

1. 新しいライフスタイルを実現できる、クリエイティブ・コミュニティの提案
ex. 遊食楽農をテーマにした都市近郊型のクリエイティブ・コミュニティ
2. クリエイティブ・コミュニティで実現する、様々な活動を支える施設、商品、サービスの提案
3. クリエイティブ・コミュニティを経営・運営するシステムの開発、提案

生体リズムとハーモナイズする生活空間

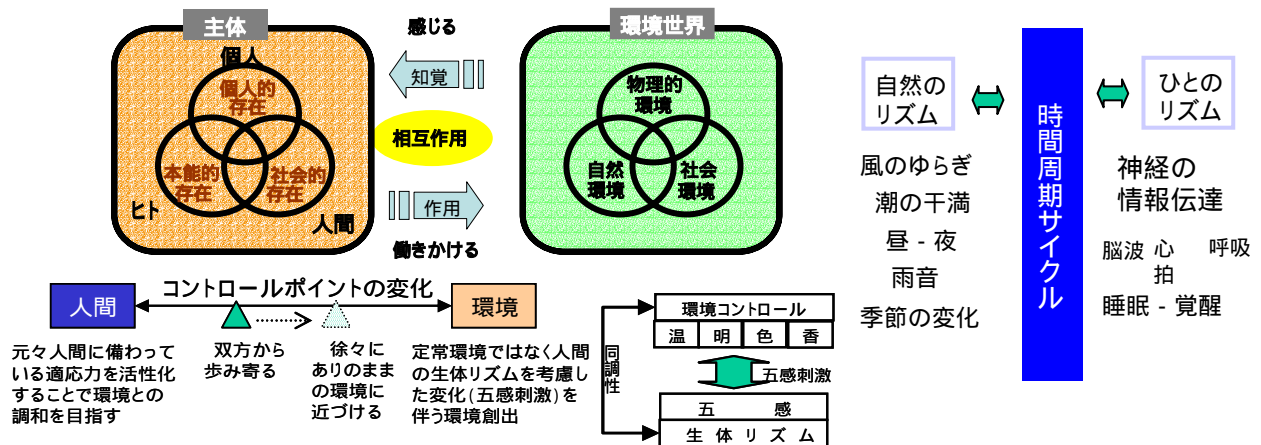
背景と目的

健康志向は年々高まってきており、その市場は業界を問わず拡大している。
本テーマでは、健康を「五感を通じた人間と環境のインタラクション」の側面から捉え、新たな生活価値を探る。

人間と環境が、無理なく調和でき、また同時に人間が活性化できるような生活空間を創出することで心身の充実したより能動的な健康生活を提案する。更に参加メンバーが得た知見を礎として新たな製品やサービスへの発展を目的として取り組みました。

主な研究項目

1. 生体リズムと同調した環境制御
人間本来のリズムと現代生活のギャップを解析
生体リズム変調時の人体への影響
五感刺激による生体リズムの調整手法
新たな快適性へのアプローチ
2. 人間の環境適応力の活性化
五感刺激量と人体活性度の関係
継続的な五感刺激に対する人間の適応
個人差の幅に関する考察
自律神経系の活性化、行動体力向上



コーディネーター

篠原惇理 (積水ハウス株式会社 設計本部次長)

アドバイザー

吉田正樹 (大阪電気通信大学 医療福祉工学部長・教授 | 医用機器学、バイオメカニクス、医用生体工学応用演習)

石田直理雄 ((独)産業技術総合研究所 生物機能工学研究部門 生物時計研究グループ長)

期待される成果

- ・五感の状態・時間変化をモニターするセンシング技術を活かした新商品開発、新しい空間提案
- ・「五感回復」につながる環境(温熱、光・色彩、香り)呈示技術の開発

五感マテリアル ～五感価値の創造・再発見～

背景と目的

機能性、効率性、合理性などの追求の結果、均一化された無機的な完成品としてのモノが身の周りにあふれている。一方、ほっとする、わくわくする、ドキドキするような、人との関わりをもつモノの価値が高まっています。

また、清潔感、癒し、LOHASなど暮らしのなかで新しい価値観が生まれ、自然生態系への負荷に配慮したモノの価値も高まっています。

本研究会では、各種のモノや材料に対して五感的な価値の再発見と創造とを目指し、生活空間のなかで人とモノとの心地いい関わりをもつ五感マテリアルを活用した新しい生活五感空間を検討して参りました。

主な研究項目

(1) 人視点：生活価値の創造

- ・人の成長・衰退とモノとの関係
- ・五感それぞれの感覚変化とモノとの関係、愛着(特別価値)の発生
- ・新しいライフスタイルとモノとの関係
- ・ナチュラル志向 - テクニカル志向、今 - 昔、男 - 女、世代

(2) モノ視点：材料価値の創造

- ・わくわくする、ほっとするなど五感をくすぐるアメニティー材料
- ・自然を活かし、生態系に配慮したLOHAS材料
- ・水や空気をきれいにする、光を活用する

(3) 人とモノ視点：生活価値と材料価値の融合

- ・五感視点での既存材料価値再発見、あたらしい五感材料の提案
- ・コラボレーションによる新しい五感空間の創出
- ・伝統材料 * 先端材料 * モノ系企業 * 空間系企業 * アーティスト * 生活者 * ...



自然生態系



生活五感空間

コーディネーター

藤村洋一 (東レ株式会社アメニティー事業部門事業化推進G 課長)

アドバイザー

赤池学 (株式会社ユニバーサルデザイン総合研究所 代表取締役所長)
1958年東京生まれ 筑波大学第二学群生物学類卒業
著書に、「ニッポンテクノロジー」(丸善・2005年)
「カタツムリが教えてくれる」(ダイヤモンド社・2004年) 他多数

期待される成果

- ・材料を軸としたコラボレーション/コミュニケーションによる新しい五感価値の提案と五感材料創出
- 各種五感価値材料の創出・再発見と、それらを用いた五感価値商品の開発
- 五感マテリアル(五感価値材料・五感価値商品)を活用した五感生活空間の提案

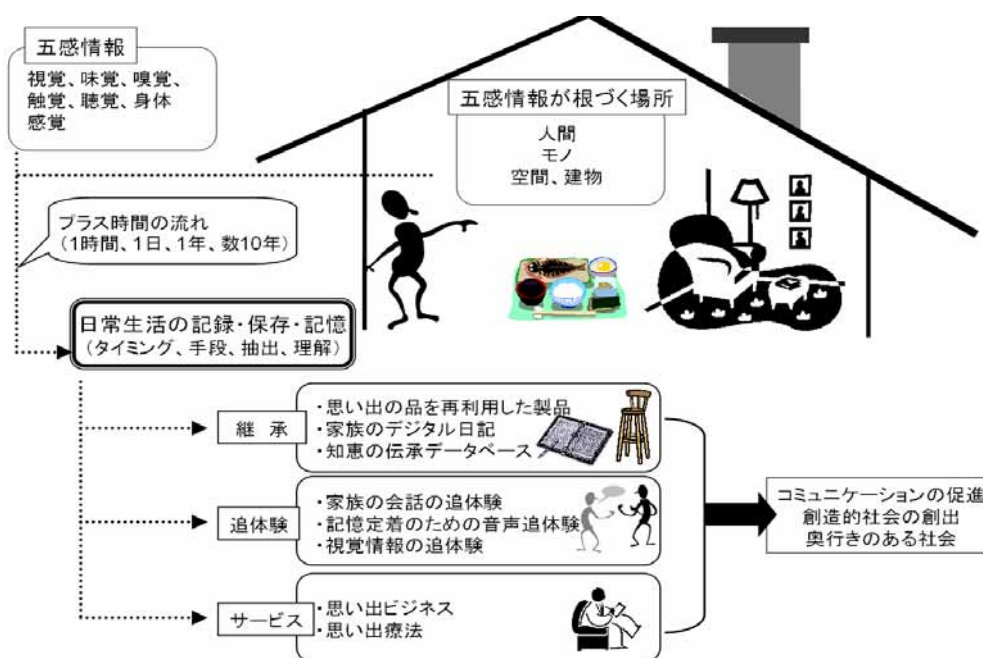
世代を越えた五感アーカイブ

背景と目的

大家族崩壊、核家族化の進展、そして個の時代に向かう中、家族や家庭がもっていた価値が見失われようとしています。一方でパーソナル情報機器の普及により、日常生活のアーカイブ化が容易になった反面、記録される情報洪水あるいはメディアの互換性・継続性が問題になっています。本分科会では、世代を越えた家庭・家族の記憶(五感アーカイブ)の新たな記録・蓄積・再生手法を調査研究するとともに、世代を越えた五感アーカイブに関わるビジネスモデルを検討して参りました。

主な研究項目

- (1) 日常生活の五感による記録・蓄積・再生手法の検討(五感アーカイブ)
- (2) 「ユビキタス」社会における家庭・モノ・思い出に関する研究
- (3) 五感アーカイブビジネスの可能性検討(思い出ビジネス、思い出療法)



コーディネーター

和田雄志 (財団法人 未来工学研究所 21世紀社会システム研究センター長)

アドバイザー

野島久雄 (成城大学 社会イノベーション学部 心理社会学科 教授)

東京大学文学部社会心理学専攻課程、NTT基礎研究部門を経て現在に至る。

「思い出工学」を提唱。思い出コミュニケーションツール開発。

近著「<家の中>を認知科学する」(新曜社)

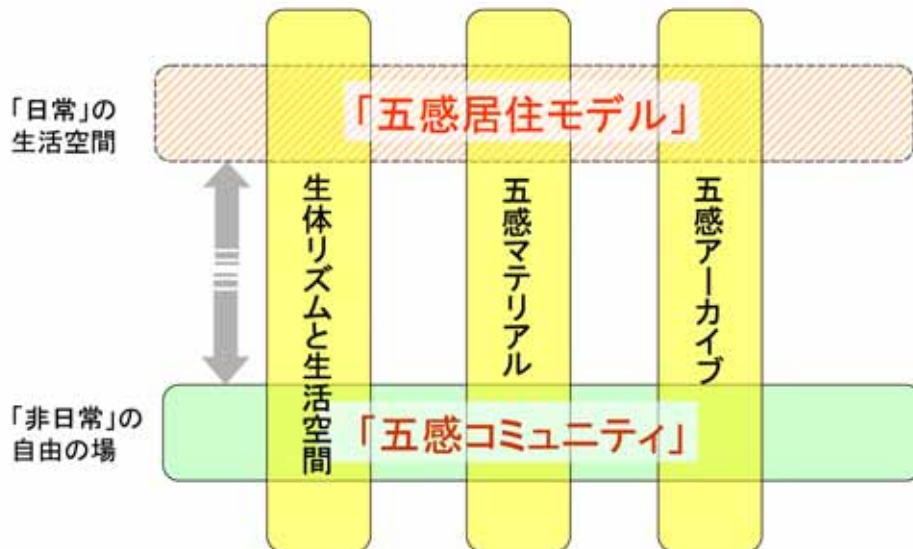
期待される成果

- (1) 溢れる個人の記録、記憶された情報の利活用、展開方法の具体的提案
- (2) 五感アーカイブを活用した公共施設、ミュージアムの提案
- (3) 個人生活の記録・記憶に関わるパーソナルメモリービジネス(PMB)の展開

【活動方針(案)】

	平成18年度	平成19年度	アウトプット	
住空間WG	<p>コンセプトメイク</p> <p>ターゲット設定 ・家族構成 ・ライフスタイル</p>	<p>五感居住モデル</p>	<p>モデル住宅の建設</p>	
生体リズムWG	<p>アウトプットイメージ作成</p> <p>テーマ対象 ・子供の発達 ・疲労 ・肥満 ・認知症</p> <p>生体リズム計の開発企画 予備実験 ・活動データの連続測定</p>			<p>居住モデルの具体化</p> <p>生活シーン想定 ・生活スケジュール ・各生活行為と空間 ・理想的な生活像の構築</p> <p>設計要件の設定 ・空間構成 ・要素展開</p>
五感マテリアルWG	<p>五感マテリアルマップ作成</p>			<p>生体リズム計開発PJ化へ センサー研究会とのコラボレーション</p>
五感アーカイブWG	<p>サーベイ</p> <p>(個人のアーカイブ) (街のアーカイブ)</p>			<p>モデルプランのブラッシュアップ</p> <p>具体的な場所の想定 事業的側面での検討</p>
五感コミュニティWG	<p>人間らしく五感豊かに暮らすための「自由の場」の定義</p> <p>モデルプランの作成 「遊食楽園倶楽部」</p>			<p>モデルプランの提案</p>

生活五感研究会のテーマ展開



【体制】

主査：和田雄志 (財)未来工学研究所 21世紀社会システム研究センター長
篠原惇理 積水ハウス(株) 設計本部次長

< 五感コミュニティ >

Coordinator : 前田松和 鹿島建設(株) 関西支店次長
Adviser : 加藤晃規 関西学院大学 総合政策学部 教授

< 生体リズムとハーモナイズする生活空間 >

Coordinator : 篠原惇理
Adviser : 吉田正樹 大阪電気通信大学 医療福祉工学部理学療法学科 学部長・教授
石田直理雄 (独)産業技術総合研究所 生物機能工学研究部門 生物時計研究グループ長

< 五感マテリアル >

Coordinator : 藤村洋一 東レ(株) アメニティー事業部門事業化推進G 課長
Adviser : 赤池学 (株)ユニバーサルデザイン総合研究所長

< 世代を超えた五感アーカイブ >

Coordinator : 和田雄志
Adviser : 野島久雄 成城大学 社会イノベーション学部 心理社会学科 教授